

平成28年度 文教委員会資料⑦

【所管事務の調査（報告）】

英国オリンピック代表チームのオリンピックリオ大会事前キャンプ視察報告
について

資料1 英国チーム 2016リオ大会事前キャンプ
ブラジル ベロ・オリゾンテ 視察報告

市 民 文 化 局

(平成28年8月31日)

TEAM GB PREPARATION TRAINING CAMP FOR 2016 RIO OLYMPIC GAMES IN BELO HORIZONTE

英国チーム 2016リオ大会事前キャンプ
ブラジル ベロ オリゾンテ
視察報告

ブラジル ベロオリゾンテ市出張について

●出張の目的

2020東京大会時の英国オリンピックチームの事前キャンプ受け入れ準備に向け、リオ大会に出場する英国チーム事前キャンプ地（ブラジル国ベロオリゾンテ市）を訪問し、受け入れ施設の視察及び英国オリンピック委員会（BOA）・施設管理者等との意見交換を実施

●日程

・平成28年7月31日（日）～平成28年8月5日（金）（現地8月1日～3日）

●訪問先

- ・事前キャンプ使用施設：ミナスジェライス連邦大学（UFMG）、ミナス・テニス・クラブ（MTC）
- ・英国チーム宿泊施設：ホリディ・イン、サンディエゴアパートメントホテル

●成果

- ✓ BOAによる事前キャンプ運営体制を確認
- ✓ 受け入れ施設側の運営体制詳細を確認（担当窓口体制、警備体制、施設利用方法等）
- ✓ リオ大会終了後から2020年に向けた事前キャンプ受け入れの具体的なスケジュールを確認

1 英国チーム事前キャンプ地 ベロオリゾンテ市概要

●ベロオリゾンテ市概要



- ・ブラジルの南東部、標高約800メートルの高原に建設された計画都市
- ・ミナスジェライス州の州都
- ・人口 約240万人、国内第4位の都市(Wikipedia)
- ・リオから約450キロメートル、飛行機で約1時間



●なぜBOAはベロオリゾンテ市を事前キャンプ地に選んだのか (BOA ポール・フォード氏談)

- リオと時差がない
- 大会と同じ陸上競技場サーフェス
- 大会と同じ屋内プール
- 治安がよい (ホテル周辺地域)



2 英国チーム（TEAM GB）事前キャンプの概要

●英国チームの特徴

- ・他国と異なり、複数競技団体が一都市でトレーニングを行い、BOAが代表してハンドリングを行う
【目的】チームGBとしての一体感の醸成、アスリート同士の交流など
- ・予算規模は1.5百万ポンド（約2億円、英国宝くじ財団からの助成）

●主な使用施設及び練習競技等（全体で400～450名規模）

使用施設	ミナスジェライス連邦大学 (UFMG) 体育施設	ミナス・テニス・クラブ (MTC)	クルゼイロFC (※視察せず)
練習競技	陸上、競泳	柔道、卓球、ボクシング、フェンシング、重量挙げ、マラソンスイミング、テコンドー、カヌースプリント	7人制ラグビー
主な設備	・フィールド&トラック ・屋内50m/25mプール ・トレーニングジム	・複合体育館 ・柔道場 ・屋外50mプール ・トレーニングジム	・サッカーフィールド
宿泊施設	サンディエゴアパートメント (250名程度)	ホリディン（60名程度） (BOA本部設置)	メルキュール（※視察せず 170名程度）

3 英国チーム (TEAM GB) 事前キャンプの位置

- ベロオリゾンテ・タンクレド国際空港からホリディンまで約50キロ
渋滞なしで車で約1時間

- 各練習施設とホテルの間は巡回シャトルバスで10分程度
(UFMG ⇔ サンディエゴアパートメント、MTC ⇔ ホリディン)

- BOAスタッフは、自ら運転して体育施設や宿泊施設を移動

- BOAスタッフによる空港と宿泊施設間の移動多し
(事前キャンプ地から選手村への移動、大臣や王室の視察アテンド等)



Espírito Santo 経由

34 分
13.9 km

4 事前キャンプ施設①

ミナスジェライス連邦大学（UFMG）体育施設概要

UFMG

練習競技	陸上、競泳
主な設備	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド&トラック（8レーン、モンド社製サーフェス 屋内練習場なし） ・屋内50m/25mプール（可動式） ・トレーニングジム（TGB用に機器を設置）

- チームGBは広大なキャンパスの一角にある陸上競技場及び併設建物を占用（1階にジム、シャワー・ロッカー、倉庫、2階に事務室、3階にプール、シャワー・ロッカー）
- 建物は3年前に建設が始まり昨年12月に完成（内部設備等についてはチームGBが来る10日ほど前に完成）
- 施設視察のほか、英国陸上担当者に等々力陸上競技場の利用方法等について直接ヒアリング



4-2 事前キャンプ施設①

ミナスジェライス連邦大学 (UFMG) 陸上競技場

- 陸上競技場の仕様・・・トラック (8レーン) & フィールド、建物内にシャワー・ロッカーあり



● 施設使用状況

- ・陸上はスタッフ含め80名規模
- ・トラックの端を投てき練習場所として使用 (フィールドの一部立ち入り禁止)
- ・逆サイドを棒高跳び等の練習場所として使用
- ・ナイター照明あり
- ・建物側ひさし下に休憩スペースを設置
- ・チームGBグッズやペイントは英国側で準備



★等々力陸上競技場の使用想定 (英国陸連担当者談)

- ・投てき練習は補助競技場を使用し、照明器具は英国側が持ち込む
- ・使用する用具は英国側が持ち込み、一部は施設側のものを使用する
- ・トラックサーフェスはモンド社製でなければいけないということではない

4-3 事前キャンプ施設①

ミナスジェライス連邦大学 (UFMG) 陸上競技場



《投てき用ゲージ》



《走り高跳び》



《走り幅跳び》



《棒高跳び》



《用具倉庫》



《車椅子用トイレ・シャワー》

4-4 事前キャンプ施設①

ミナスジェライス連邦大学 (UFMG) 競泳用プール

- 競泳用プールの仕様・・・屋内50mプール（8レーン） & 25mプール（スタート台は可動式）
建物内にシャワー・ロッカーあり



● 施設使用状況

- ・競泳チームリオ入り後に視察のため練習風景は確認できず
- ・水温27℃に設定（英国と同じ水温）
- ・建物1階に水温・水質等のコントロール設備あり



4 - 5 事前キャンプ施設①

ミナスジェライス連邦大学 (UFMG) その他附帯施設

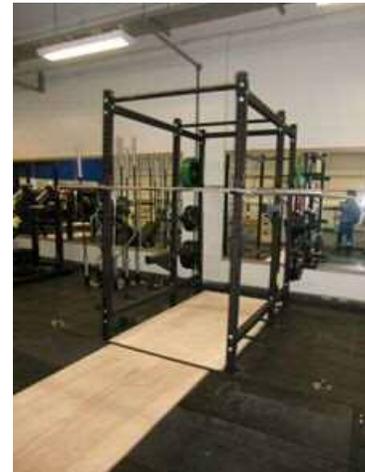
- ハイパフォーマンストレーニングジム・・・世界クラスのトレーニングマシン（スクワットセット及びセルフトレーニング機器）を複数セット配置。一部は英国側が船便で持ち込み、一部はUFMG側で準備

※重い機器のため、1階コンクリート床にゴムマットを敷いて設置



★大学にとってのレガシーとは
(UFMGセルジオ教授談)

- ・英国からの一部のトレーニング機器の寄贈
- ・私立クラブ中心だった地域体育教育への大学の関わりを今後強化



5 事前キャンプ施設②

ミナス・テニス・クラブ (MTC) 施設概要



minas tênis clube

練習競技	柔道、卓球、ボクシング、フェンシング、重量挙げ、マラソンスイミング、テコンドー、カヌースプリント
主な設備	<ul style="list-style-type: none"> ・複合体育館、メインアリーナ ・柔道場 ・屋外50mプール ・トレーニングジム（チームGB用に機器を設置）



- 1935年設立の会員制複合型スポーツクラブ
- スポーツ・教育・文化・社会貢献の4本柱で運営、75,000人が在籍し、リオ大会へも14人の選手を輩出
- チームGBが使用する施設は市中心部にあり、4階建ての建物と屋外プール、文化ホール、会議室、美術館等を備えた複合施設
- 建物内には、体育館（独立したバスケットボールコート、バレーボールコート、体操場、フットサル練習場、柔道場等）及び4,000名が入るメインアリーナがあり、チームGBはメインアリーナを占有しているほか、クラブ側と柔道の合同練習を実施
- 施設視察のほか、クラブ理事等と意見交換

5 - 2 事前キャンプ施設②

ミナス・テニス・クラブ (MTC) 体育施設使用状況

- メインアリーナ・・・4,000人の観客席があり、チームGBが事前キャンプ期間中占用。視察前は卓球・ボクシングの練習に使用、視察時はフェンシングの練習用に転換（仕様はリオ大会と同一）



- 柔道場・・・2面あるうち、1面ずつMTC会員のハイレベルチームとチームGB柔道チームで使用し、両チームで合同練習も実施



- 屋外プール・・・50mプールをマラソンスイミング競技に使用



5 - 3 事前キャンプ施設②

ミナス・テニス・クラブ (MTC) その他附帯施設等

- ハイパフォーマンストレーニングジム・・・2部屋をトレーニングエリアとしてチームGBに解放。機器類は全て英国から船便で持ち込み、事前キャンプ終了後はMTCへ寄贈
※重い機器のため、1階コンクリート床にゴムマットを敷いて設置



- メディアセンター・・・BBC（英国放送協会）のテレビ・ラジオの事前キャンプ専属チームが常駐



- ボランティア・・・MTCにおける事前キャンプ運営補助として会員がボランティアとして参加（約60名）



★MTCにとってのレガシーとは (MTC理事カルロス氏談)

- ・トレーニング機器の英国からの寄贈
- ・会員のプロボノ的な観点からのボランティアとしての事前キャンプ運営への貢献
- ・柔道チームの1年前キャンプ実施など、継続したキャンプ受け入れにつながる



5 - 4 事前キャンプ施設②

ミナス・テニス・クラブ（MTC）事前キャンプの運営体制

- ・会員制スポーツクラブであることから、外部への貸し出しというシステムがなく使用料徴収はせず、理事会に諮り会員の同意を得て事前キャンプを受け入れ
- ・チームGB事前キャンプ担当職員を専属で置き、実務的な責任者を一本化（BOAのポール フォード氏との連絡調整担当）
※担当者（責任者）はチームGBの一員として扱われ、チームGBからユニフォーム等が支給
- ・各部門の責任者（スポーツ、設備、管理、メディア担当の管理職級）もそれぞれ事前キャンプ運営に対応
- ・事前キャンプ総合受付やクラブ内各施設の案内等は会員がボランティアとして実働
- ・事前キャンプ受け入れに際して小規模の施設改修等のみを実施
- ・クラブではチームGBとのコラボウェアを作成・販売



6 事前キャンプ施設③ イアテ・テニスクラブ (IATE TENIS CLUBE)



使用施設	<ul style="list-style-type: none"> ・7人制ラグビー（プール及びクーリングバス） ・チームGBスタッフ用ジム ・チームGB用会議室
主な設備	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外プール ・トレーニングジム（既存設備を利用） ・会議室

- ホテル（サンディエゴアパートメント）の道路向かいにある会員制スポーツクラブの一部を7人制ラグビートレーニング（一部）及びチームGBのスタッフ向けに借り上げ



7 事前キャンプ受け入れ施設共通事項

どの使用施設にもチームGBが必ず設置する機能

●選手用ラウンジ（R&R：レスト&リラクゼーション）

- ・選手が本国にいるような気分になってリラックスできるよう、家具や設備を英国調で統一（家具類は全て船便で持ち込み）
- ・テレビ番組も本国と同じものを同時放映
- ・軽食コーナーも設置



●ダウン&リカバリールーム

- ・施設側のジャクジーバス、クーリングバスの活用に加え、チームGBで空気式のクーリングバスを持ち込み各施設に複数設置
- ・施設の製氷機を使用



●フィジオセラピールーム （理学療法ルーム）

- ・理学療法及びマッサージ器材一式を英国から持ち込み



●医務室 （メディカルルーム）

- ・施設の一室を活用し、日中は医師・看護師・理学療法士が常駐、夜間はホテルにて対応
- ・医療品用倉庫を施設内に併せて確保
- ・施設側でも病院や薬局情報の提供など協力

●受付及びインフォメーションボードの設置

8 宿泊施設

ホリディイン 及び サンディエゴアパートメント

● Holiday Inn Savassi

- ・旗艦的宿泊施設で、BOA CEOのビルスウィニー氏、事前キャンプ担当のポールフォード氏含め、BOAの中心人物及び選手が宿泊
- ・一般客も宿泊しているが、チームGB用にフロアごと借り上げ
- ・チームGBのHQ(ヘッドクォーター、本部)として4階を借り上げ、キャンプ全体をコントロール
- ・HQオフィス前にチームGBの受付を設置し、ボランティア及び警備員を配置
- ・20分間隔でMTCとの間をシャトルバスが運行
- ・ホテル側と交渉し3食付で1泊65ポンド/人で宿泊



● Hotel Sandiego Suites Pampulha

- ・新築ホテルでチームGBが借り上げ
- ・1階受付にBOAスタッフ2名及びボランティアを配置
- ・30分間隔でUFMGとの間をシャトルバスが運行



8-2 宿泊施設共通事項

どの宿泊施設にもチームGBが必ず設置する機能

●選手用ラウンジ（R&R：レスト&リラクゼーション） ※練習施設と同様

- ・選手が本国にいるような気分になってリラックスできるよう、家具や設備を英国調で統一（家具類は全て船便で持ち込み）
- ・テレビ番組も本国と同じものを同時放映
- ・軽食コーナー、ゲーム機も設置



●食堂

- ・チームGB専用食堂を設置（ホリディインの場合は食堂の一部をチームGB用に分離して配置）
- ・英国からチームGB専用シェフを帯同（ホリディインの場合は現地シェフがチームGB用メニューを担当）



●チームGB用受付及びインフォメーションボード

- ・BOAスタッフ及びボランティアによる受付の開設
- ・本日の主なスケジュール、シャトルバスの時間、チームGBの連絡体制、その他連絡事項等を掲示したインフォメーションボードを設置



●医務室（メディカルルーム）

- ・医師、看護師等が夜間常駐

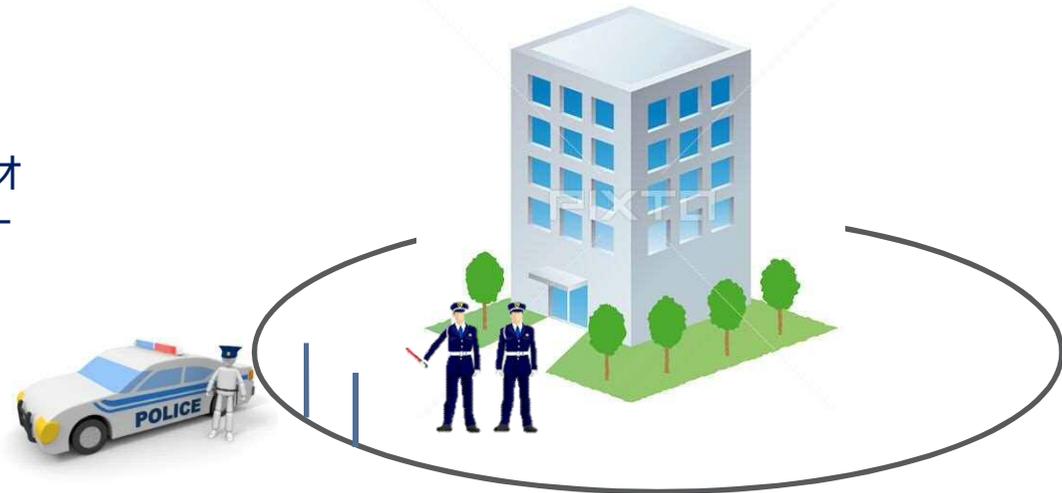


9 事前キャンプの警備

練習施設及び宿泊施設に共通する事項

● 施設敷地外（敷地出入り口付近）

- ・BOAからミナスジェライス州政府及びベロオリゾンテ市政府へ依頼し、警官・パトカーを配備
- ・車止めを設置し、施設によってはID確認
- ・早朝から夜間までの警備



● 施設敷地内（建物出入り口付近）

- ・BOAが契約した民間警備員が建物出入り口付近を警備
- ・状況に応じてID確認等、出入りをチェック



● 建物内部

- ・施設側の既存警備体制による警備（民間警備員の複数配置）



10 事前キャンプを視察して確認できたこと

今後の調整に関すること

● 今後の調整窓口

BOAが英国の各競技団体を束ねる形となるため、各競技団体（NF）と各自治体・大学とのやりとりではなく、BOAと各自治体・大学とのやりとりが基本

● レガシーに関する調整

施設使用料の有無・免除や、チームGBが持ち込む設備類の寄付、事前キャンプ期間中の選手との交流事業の開催等は今後の交渉材料に

事前キャンプ中の対応

● 事前キャンプ運営窓口

実際の事前キャンプ受け入れ時には、各施設ごとにBOA担当者（チームGB事前キャンプ担当者）との窓口を置いて運営する

● メディア対応

拠点練習施設にはBBCが常駐予定

BOAのメディア担当が取りまとめてプレス向けに公開練習を実施（国内外のプレスカバー高い）

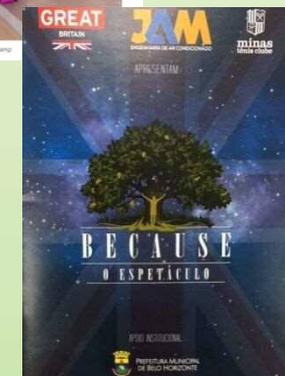


● ボランティアによる運営補助

施設側及びベロオリゾンテ市で約140名程度を手配

● 文化プログラムの実施

行政・施設・英国側共催の文化イベント等を実施（MTCシアターでの“Beatles Night”の開催）



1 1 今後のBOAとの調整スケジュール

●9月中旬頃：年内の契約締結に向けた契約書案のBOAからの送付

- ・契約書は具体的な施設使用の条件やレガシー等を記載した契約案文及び別表で構成
- ・契約は各施設管理者（川崎市、横浜市、慶應義塾）とBOAとの間で個別に締結

●2016年10月3日（月）～8日（土）BOA来日

【目的】 事前キャンプに使用する施設視察及び契約締結に向けた内容の具体的な調整

【人数】 約8名

（BOA CEO ビル・スウィニー氏、事前キャンプ責任者ポール・フォード氏、
法務担当シャハブ氏のほか、陸上、水泳等の競技団体から参加予定）

●2016年10月18日（火）～23日（日）川崎市英国訪問

【目的】 BOA及びBPAとの意見交換 他

●契約はできれば年内に締結したい（BOA）